

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 佐用町

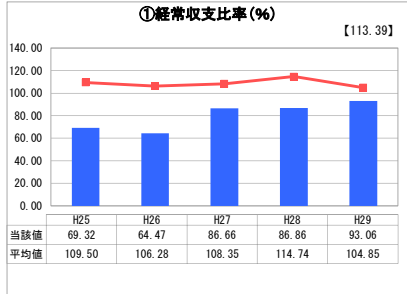
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	82.21	95.40	3,402	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,354	307.44	56.45
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,919	91.06	43.04

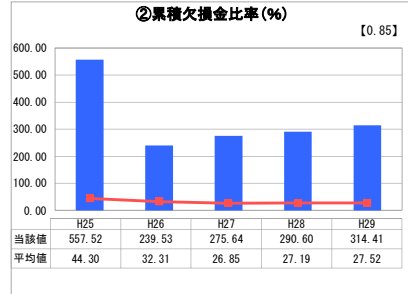
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

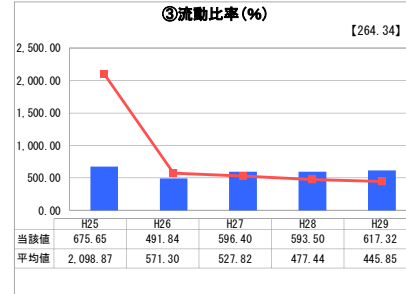
1. 経営の健全性・効率性



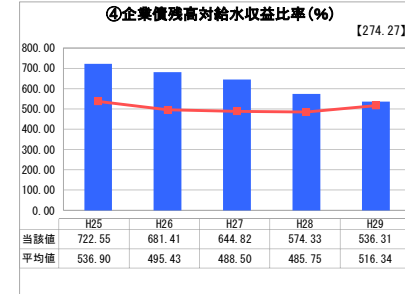
「経常損益」



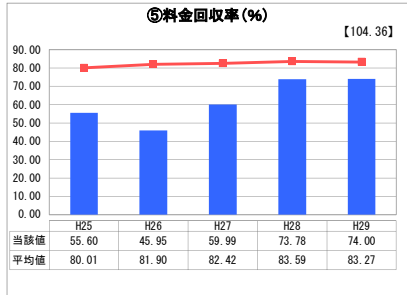
「累積欠損」



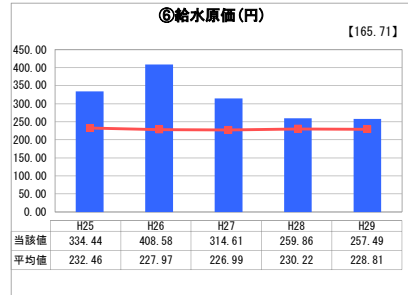
「支払能力」



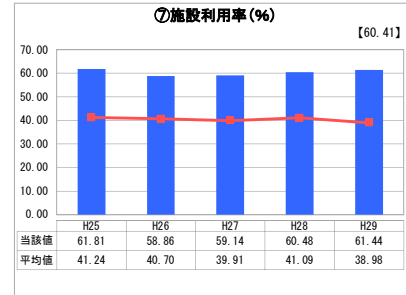
「債務残高」



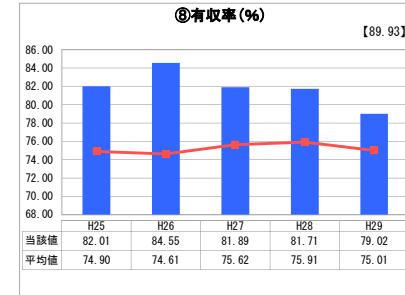
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

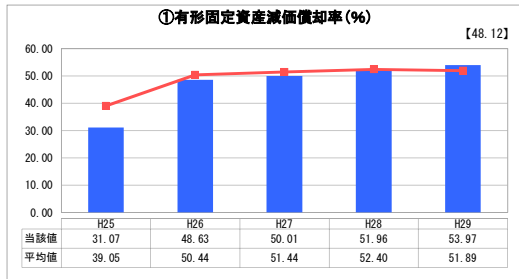


「施設の効率性」

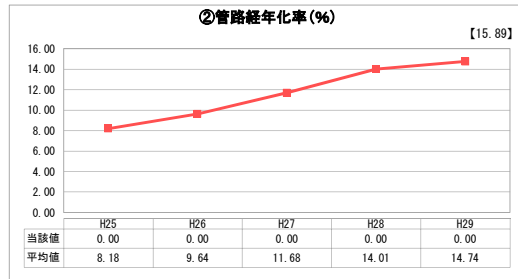


「供給した配水量の効率性」

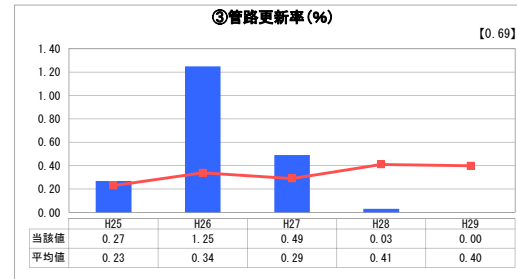
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率及び⑤料金回収率が100%を下回っていることから、給水費用が料金収入等による給水収益を上回っている。地理的に不利な点から投資規模が過大となり維持管理費に比例している。そのため②累積欠損金は会計基準の改正による長期前受金の一括収益により減少するも河川改修事業に伴う資産減耗費が増加、改正に伴い繰出基準による他会計補助金が減額し、増加は避けられない。③流動比率は会計基準の改正による企業債が負債に追加されても大幅に変化していない。⑦施設利用率及び⑧有収率は類似団体と比較して高く、施設の稼働状況は適正な範囲と言える。④企業債残高対給水収益比率は、山間地のため投資規模が過大傾向にあり、過疎化による人口減少も影響し高水準となっている。⑥給水原価は、管路更新工事等未実施であるが類似団体と比較して高く、維持管理費が増大であることが伺える。原因としては、山間地のため、投資規模が過大とならざるをえず、送水のためのコストが大きくなっていることが考えられる。

2. 老朽化の状況について

現在のところ耐用年数を経過した管路は存在しないが、①有形固定資産減価償却率が53.97%であり、③管路更新率は河川改修事業の終了、道路改良に伴う移設工事の実施が延期されたため未実施となっており、将来迎える耐用年数経過時に向けて更新の計画をしておく必要がある。

全体総括

山間地という不利な立地条件のため、住居が点在しており、送水にかかるコストが、都市部など人口密度が高い地域に比べ割高になるのが避けられない状況である。
また、過疎化による人口減少が加速化し、給水収益の減少も今後見込まれる。
経営戦略及びアセットマネジメントを策定により事業統合等、長期的な視野のもとで計画的な経営に取り組み、経営改善に努める。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。